

岩手県大槌町の現状について語るAMDA現地スタッフの佐々木さん(右)と元持さん—北区のAMDA事務所



北区・AMDA

「メンタル面ケアを」

佐々木さん 大槌町の現状を報告
元持さん

東日本大震災の復興支援を行っている国際医療救援団体「AMDA」の現地スタッフとして、岩手県大槌町で活動している佐々木賀奈子さん(49)と元持幸子さん(37)が14日、北区伊福町3のAMDA事務所で、大槌町の現状について報告した。

2人は大槌町在住。佐々木さん

はしんきゅう師として震災前から開業していたが、被災後はAMDAでしんきゅう治療に当

参加した。

まず元持さんが、大槌町と宮城県気仙沼市の商店街交流の様子、2人が活動する「大槌健康サポートセンター」で重ねている被災者同士の交流などを紹介。「一緒に前に向けて進んでいけるような流れにしたい」と話した。

佐々木さんは「今後は被災者のメンタル面のケアが必要」と指摘。「特に仮設住宅で一人暮らしのお年寄りは、一人でいることに不安を抱えている。お年寄りに『生きていて良かった』と言ってもらえるようなケアをしていく」と語った。

東日本 大震災

後からAMDAに

【江見洋】